

経済振興委員会報告資料

都心部におけるアート発信機能の強化について

令和4年12月  
経済観光文化局

### 1. 背景

福岡市では、令和4年度より、福岡市美術館や福岡アジア美術館のこれまでの取組みをさらに発展させ、彩にあふれたアートのまちを目指して、「**Fukuoka Art Next**」(FaN)に取り組んでおり、「アートのある暮らし」と、「アートスタートアップ」の両輪で事業を推進している。

今回、FaN事業における、今年度の取組み状況とアート発信拠点の検討状況について報告するもの。

### 2. FaN事業の取組み状況

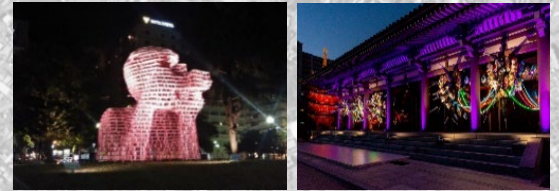
#### ウォーターフロントエリア

- アートフェアアジア福岡開催 (9/30~10/3)  
@福岡国際会議場
- 屋外アート作品展示  
@ボートレース福岡



#### 博多旧市街エリア

- レジデンス事業の拡充 (福岡アジア美術館)
- 屋外アート作品展示  
@冷泉公園ほか
- アートフェアアジア福岡開催 (9/30~10/3)  
@ホテルオークラ福岡

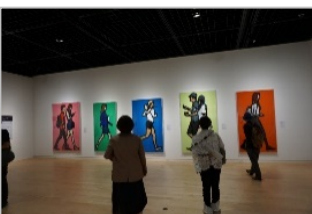


● Artist Cafe Fukuoka

★ 福岡市美術館

#### セントラルパークエリア

- アーティストカフェの開設 (9/1 オープン)
- 福岡アートアワードの新設 (福岡市美術館)
- 福岡市美術館コレクターズ展 (9/23~10/10)



#### 天神・博多駅エリア

- Fukuoka Wall Art Project (仮囲い等へ作品掲出)



#### FaN Weekの開催 (エリア連携)

- 福岡の街中にアートスポットがあふれ、現代アートでにぎわうFaN Weekを各所で展開 (9/23~10/10)



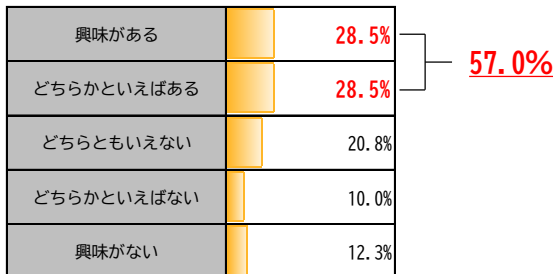
### 3. 現状と課題

#### (1) アートに関する現状と課題

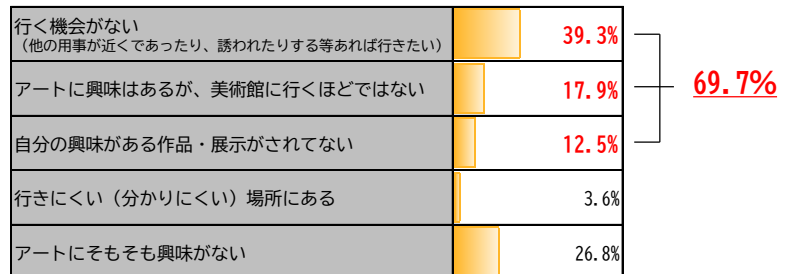
- ・ 福岡市美術館リニューアルによる集客増や、FaNによるアートの機運醸成がなされている。
- ・ アート自体に関する興味関心は約6割と高い一方で、若い世代を中心に、美術館に行かない理由の約7割が、機会があればアートに触れたいなど潜在層となっている。

⇒ 美術館の来館機会増加、アートに親しむ機会の創出、アートに関する潜在層の掘り起こしが課題。

<アートへの興味関心>



<美術館に行かない理由>



令和4年8月 | 美術館及びアートに関するアンケート調査 (N=130)

#### (2) 都心部のまちづくりに関する現状と課題

- ・ 天神ビッグバンや博多コネクティッドにより、民間活力を最大限に引き出しながら、安全安心で未来に誇れる質の高いまちづくりが進められている。
- ・ 建物の建て替えにおいては、憩いや緑、アートなどの癒しや、交流機能の導入も進められている。

⇒ アートによるクリエイティビティの向上など、更なるまちの高質化が課題。

### 4. 都心部におけるアート発信機能の強化

#### (1) 必要性

- ・ 若い世代をメインターゲットに美術館への誘引を図ることやアートに関する潜在層の掘り起こしが重要であるため、普段の生活の中で、いつでも気軽にアートに触れることができるように、若者をはじめとする多くの市民が集う都心部において、アート作品の展示や美術館の情報発信を行うなど「アート発信機能の強化」が必要である。
- ・ 都心部に位置し、文化的な素地があり、天神ビッグバンで新たなまちづくりが進められている天神地区において、貴重な公共空間などを活用した文化・アートを発信することでアートによるまちの魅力向上を図る必要がある。

#### (2) 取組みの方向性

- ・ 天神地区の公園などを活用したアート発信拠点の設置を検討していく。

→ 天神地区は、商業集積地であり、多くの市民が集まり、かつ若い世代が多く、公園などを活用することにより、恒常的な展開が可能のため。

※アート発信拠点機能:市美術館、アジア美術館への誘引機能を有した情報発信、誰もが立ち寄りやすく親しみやすい場の創出、気軽にアートに触れることができる展示機能など

### 5. 今後の進め方

- ・ 今年度より取組みを開始したFaN事業を推進するとともに、多くの市民が、いつでも気軽にアートに触れられる場の創出を目指し、天神地区の公園などを活用したアート発信拠点について、具体的な場所の選定や必要な機能、民間活力の活用などによる事業手法など、具体の検討や関係者との協議を進めていく。